

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふたば アシスト		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・社会適応スキル支援を基本に将来(進学。就労)に向けた支援を行っています。	・活動を通して自信や自己効力感を高めることを目的に、集団活動の中でSSTを取り入れた言葉や行動の意味の理解を毎回過活動に取り入れています。 ・保育士、児童指導員が連携することで、専門性を活かした支援ができます。 ・子どもの個々の発達課題や年齢に応じたアプローチを行っています。	・さらに充実を図るために、子ども一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高める ケース検討や研修を実施していきます。 ・子どもたちの発達の芽をとらえ、ミーティングで気づきを話し合いながら、より子どもたちの主体性を伸ばせるよう努めます。
2	・多機能型の事業所のため切れ目なく支援していけることです。	・幼児期から学齢期へと進んでも、慣れたスタッフや活動が継続することで、環境の変化による不安を軽減できるようにしています。 ・小さいころから取り組んできた活動が成長とともに発展し、成功体験を積み重ねられるよう工夫しています。	・幼児期と学齢期では支援のアプローチが異なるため、学齢期や思春期の心理的变化の理解を深めていけるよう努めます。
3	・子どもの特性に合わせた支援と情報共有していることです。	・朝礼や支援後に利用者一人一人に対してスタッフ間で情報の共有を毎回行っています。・お休みのスタッフも情報共有できるように、ノートの活用も行っています。	・スタッフ間の意見を取り入れた、個別支援計画を作成を行っています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の他のこどもとの交流機会が不足していることです。	・「放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会」を活動として提供できていません。	・様々な環境で育っているお父さんが利用しているため、通所支援施設ふたばの事業所に集まって活動に参加することが交流の機会になっている 一面もあります。 ・保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討していきます。
2	・保護者同士の交流機会の少なさです。	・交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれている為、ニーズに応じた柔軟な対応が求められています。 ・保護者会の頻度が年2回ありますが、参加も兼ねているため、交流時間が少なくなっているのが要因と考えます。	・参観なしの交流会のみの保護者会を開催するなど改善の工夫が必要です。 ・保護者の皆さんのニーズに応じた開催方法を検討していきます。
3			